くらしの危機 物価高騰 打開を！ みなさんと力合わせ

市議会議員 加増みつ子 遠山ちえ子 本田かずなり

明るい取手

2026年11月29日号
発行：日本共産党取手市委員会

◆日本共産党取手市委員会の見解を紹介します。
302-0011 茨城県取手市井野3-19-5
☎ 0297-72-7816 Fax 72-7817
https:// jcptoride.com

１２月定例市議会開会
（１日～１７日）

物価高から暮らしと健康守る 地域経済再生を

日本共産党

環境破壊から住環境守れ



参加地権者３割、事業協力者も計画も変更。駐車場が目立つＡ街区再開発事業用地（11月23日）



イオン撤退により、いよいよ不透明桑原開発。今年も収穫を終えた国道と常磐線間の耕作地（11月23日）

臨時国会が終盤を迎え、５か月後には、４年間の任期を終える中村修市政への評価と今後の市政の行方を決める市長選挙が予定される中、定例取手市議会が１２月１日開会。

日本共産党は２０２６年を振り返り、２０２７年度予算編成とその後を展望し、物価高から市民の暮らしと健康守る、地域経済の再生、環境破壊から住環境を守ること。取手市の公共の役割低下に歯止めをかけ、市民主体の自治体運営を求め全力で議会に臨みます。

【日本共産党議員 一般質問】

２大開発偏重改め 地域経済再生・生活基盤優先に

12月3日（木）午後



市議会議員 **加増みつ子**

１）令和９年度予算編成方針について

令和９年度予算は、４月に市長選があり骨格予算となるが、物価高騰の下、市民生活を守り、医療・福祉の充実、自然災害から命と財産を守る等自治体としての責務が問われます。

西口・桑原開発偏重の方針を改め道路等生活基盤整備優先へ。地場産業の再生・振興で地域内循環型経済を求めます。

２）西口開発では、トップダウンの法令違反、先行き不透明な再開発事業は、住民合意で見直すこと。

３）桑原開発では、イオンが撤退し、業務代行予定業者が選定されたが、今後の事業成立までの検証の具体的内容、地権者の意見はどこまで反映されるのか等質します。

森林の大規模伐採 法令違反の疑いを質します



市議会議員 **本田かずなり**

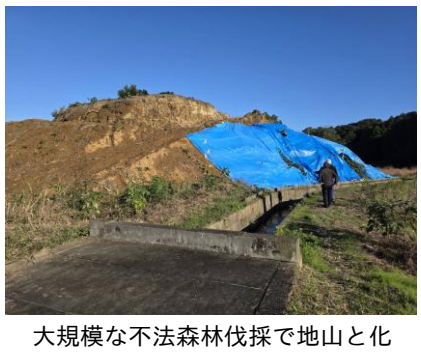
12月7日 午前10時

住み続けられる住宅政策と、野々井地域の森林伐採について一般質問します。

日本は持ち家政策が主になっており、住宅は自己責任になっています。取手市も住宅取得には補助金はありますが、賃貸居住者や住宅セーフティネットの政策は希薄です。

取手市の住宅政策は何を目的としているのかを明確にし、住みつづけられる住宅政策について質問します。

野々井で伐採された森林は、森林法に基づく取手市森林整備計画の範囲にある森林です。申請された範囲の２倍以上伐採された問題に、行政側に瑕疵はないのか、森林伐採がおこなわれた経緯と市の対応について質します。



大規模な不法森林伐採で地山と化し、山の上には人家もあり豪雨で土砂崩れの心配も（11月11日）

加入者負担で、過大にため込んだ基金 直ちに返還を

12月3日（木）午後



市議会議員 **遠山ちえ子**

この間、日本共産党は毎年恒例の国・県・市に対し予算要求申し入れを行っています。その中から、今回は①不登校支援　②自然災害時での要支援者支援③国保基金④新川・新堀について取り上げます。

特に県の国保運営で「国保水準統一化」に向けて協議中であり、県担当課説明によると、「各市町村での保険料減免は不公平でありあくまで

も統一する」と、取手市の基金について取り扱いを尋ねると、「国も協議中」と。

完全統一化までの３年間で国保基金を加入者・後期高齢者への還元に向けて具体策を求めます。

（ＪＲ取手駅千代田線ホーム エスカレーター停止）

更新・整備費、管理費1億9千万円

取手市全額負担 一転JR負担に

千代田線（１・２番）上り専用エスカレーター老朽化で、１２月１日から利用停止するとのJRの申し出に、市は存続を求め、エスカレーター更新費用と維持管理費１億９０００万円全額負担で合意し、JRは５年かけ再整備すると議会に報告がありました。

１２月議会を前に、JRのエスカレーター関係予算を含む補正予算等議案書が１１月２４日朝議員に送付され、その後事態は一転、夕方には該当部分を削除した議案に訂正されました。24日午前JR職員が市役所に来訪し「エスカレーター整備・更新費用はJR負担で行う」と伝えられたと、市から議員に報告がありました。

「構内バリアフリーは、JRの仕事なのになぜ市が全額負担なの」、西口公衆トイレ廃止後も「地代を払い続けるのもおかしい」など抗議の声が急速に広がりました。



利用停止の千代田線エスカレーター

市とJRを動かした 取手駅東口構内バリアフリー化を求める市民は、市及び議会駅周辺自治会・町内会代表らを含む署名・要請運動

取手駅構内バリアフリー整備の経過

- 2004年　取手駅西口ルートの常磐線２ホームに、エレベーター2基設置。
- 2015年　取手市は、取手駅エレベーター等新設に関する調査設計をJRに委託。
- 2017年　取手駅東口エレベーター等新設ルート３案（４案）を公表。
  ▼市JR協議の結果、千代田線ホームにエレベーター、当初予定になかったホームドア設置合意。▼市・JRともに、利用者要望よりJR都合を優先し、取手駅のバリアフリー化は「終了」とした。
- 2024年　千代田線にエレベーターとホームドア設置。JRに対し整備費の３分１市補助
- 2026年10月　JRが千代田線エスカレーター12月１日停止・廃止を取手市に伝達
  協議により更新費用・維持費全額取手市負担で存続確認。10月末議会に報告
  11月24日午前　12月議会を前に千代田線エレベーター更新・整備費を含む議案を議員に送付。同日夕、議案に含むエスカレーター関係予算を削除・訂正

高市政権 裏金作りに無反省

繰り返す資金集めパーティーと高額飲み食い

１２月１２日閉幕予定の臨時国会、自民党は、裏金事件に反省もなく、今も政治資金パーティー、高市首相ら与党幹部らの高額飲み食いなど次々に発覚。「予算カット」発言の農水相辞任、関文科相も辞任必死の事態に追い込まれ、高市首相の任命責任が厳しく問われています。「身を切る改革」と称して、民意を削る衆院比例定数削減に走る政権に対し、衆院比例定数の削減よりも「政治資金の規制強化を優先すべき」が６７．１％（共同通信全国世論調査）と反対世論が広がっています。日本共産党は、政治腐敗の大本、企業・団体献金禁止へ全力を尽くします。

民意切り捨て、与党の独裁化進める 衆院比例定数削減



「憲法守れ」「主権者は私たち」などとコールする人たち＝11月19日、国会正門前

自民、維新、国民民主の３党は、衆院比例定数を３１削減することを盛り込んだ法案を国会に提出しまし。

民意を最も正確に反映する比例代表は、現行の 176 議席から 145 議席へと一気に 2 割近く削減されます。この法案が強行されれば、小選挙区で議席を得にくい少数政党や女性、若者、少数者の声が政治に届かなくなります。

民主主義の土台壊すな！広がる世論

日本の国会議員数は、世界でも最低レベル、しかも民意を最も反映する比例代表のみの削減は民意を切り捨て、民主主義の土台を破壊するものです。狙いは、自民・維新の議席占有率を上げ、独裁政治を進めることです。

一般紙も「削減ありきの党利党略」（朝日）、「党利党略の妥協で決める話か」（読売）と一斉に批判しました。

連日、国会前や全国各地で、政治とカネの問題を、国会議員の定数削減にすり替えるものだ等「議員定数削減反対」の声が上がっています。緊急の反対署名も始まりました。是非、ご一緒に声を上げ、この悪法を通さない運動を一気に広げましょう。



スタンディングで戦争反対憲法守れと毎週木曜日に訴える加増みつ子市議と後援会員ら＝11月19日、青柳ヤオコー前

安全・快適な街 皆さんと力合わせて



アンケート等、いただいた声大切に

本田かずなり

市民が安心して生活するには、防災・減災や、通学路・生活道路などの日常の安全が不可欠です。

防災での公助のあり方、安心して住み続けられる住まい、排水や道路などのインフラ整備、通学路の安全確保など、市民要求アンケートでは様々なご意見をいただきました。また、直接いただく地域の困りごとや地域要求の声も解決に向けて全力を尽くします。

いただいた声は、ひとつずつ大切に、日常が守られ、快適に生活できるまちづくりを皆さんと力を合わせてつくっていきましょう。



「図書館づくり」は教育委員会の仕事ではないの？

遠藤俊夫
（取手駅前開発を考える会代表）

「再開発と図書館」シリーズ⑧（最終回）

地方教育行政の組織と運営に関する法律第２１条で、図書館など教育施設の設置、管理及び廃止に関することは、教育委員会の職務と明記されている。市はこれを無視、都市整備部が一貫して図書館づくりの業務を行っている。

法令違反の計画造りに予算支出、市長らに返還求め監査請求

駅前開発を考える会は、これは法令違反の不当行為であるから、市長と担当責任者は、業務に掛った費用（例えば、図書館等整備基本計画策定業務委託費約１５００万円等）を市に返還せよとの措置請求を行った（10月21日）。監査結果はまだ出ていない。

わずか地権者６名の事業に、約１００億円の公共投資（再開発市補助金、図書館等複合公共施設建設費など）が見込まれている。市の行政執行はおかしくありませんか？

人口増は、今住んでいる市民が出ていかないように

最近の議会議員研修会で、迎えた講師が、人口増に力を入れるのではなく、今住んでいる市民が「出ていかないようにどうするか」を考えることが大事だと話されたそうです。

「駅前に賑わいを創生」「茨城の玄関口にふさわしい取手駅前づくり」ばかりに幻想を持って執着する担当職員、こうした行政執行を後押しする議員などに猛省を促したいと思います。

ところで、長野県阿智村（『全国小さくても輝く自治体フォーラム』に参加している）の村づくりの目標は「住民一人ひとりの人生の質を高められる、持続可能なむらづくり」です。曖昧さを良しとするような印象を与える「ほどよく絶妙とりで」をロゴマークに持つ取手市政よ、しっかりしてください。

以上で、連載を終えます。

取手駅西口Ａ街区再開発に関しては、市民から数々の情報開示請求、不開示に対する審査請求が繰り返し行われています。同時に、住民監査請求（市長らが違法計画策定に投じた市費返還、一部地権者への利益供与の疑いに関する措置請求など）も続いています。
遠藤俊夫さん代表で提出された住民監査請求もその一つです。
再開発と図書館シリーズは今回で終わりますが、市民の運動はこれからも続きます。
お読み頂いた読者の皆さん、遠藤さん有難うございました。


取手駅西口に移転・廃止計画が不法に進められる取手図書館（11月23日）

お詫び

１１月１５日に予定した JCP ふれあいフェスタは、雨天のため中止しました。
中止のお知らせが不行き届きなど、ご迷惑をおかけしたことお詫びいたします。次回開催には、万全の対策で臨みます。
ご協力よろしくお願いします。

2026JCP とりで
ふれあいフェスタ実行委員会

１２月１３日投開票
茨城県議会議員選挙

●取手選挙区は不出馬

日本共産党は、水戸（現）・つくば（元）選挙区での２議席獲得に全力を尽くします。

合わせて、来る取手市議会議員選挙での議席拡大と市政刷新、来る国政選挙勝利に向け、強く大きい党づくりに頑張ります。皆様のご支援・ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。